

【高等学校用】

令和4年度学校評価 結果

様式1(高等学校)

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	佐賀県立佐賀農業高等学校
1 前年度 評価結果の概要	・ 基本的な生活習慣の確立と生活マナー等の向上に向けて、多くの生徒が意識をもって学校生活に取り組んでいる。今年度も、生徒一人ひとりがその大切さを自覚しさらに主体的に取り組むよう、引き続き、指導や支援に努めて行く必要がある。 ・ 学校の魅力づくりは、各学科の特色ある取組、資格取得や進路実現(就職、進学)、部活動の活性化等、着実に推進している。一方、グローバル人材育成に向けた地域との交流や探究活動については、なお一層、力を入れていく必要がある。 ・ 「生活マナーの向上」「学校の魅力作り」そして「タイムリーな情報発信」を通して、在校生の満足度のアップとともに、地域のの方々や中学生からの期待に応えられる学校づくり(必要とされる学校づくり)に、引き続き、邁進する必要がある。 ・ 業務改善や働き方改革の推進に向けては、職員一人ひとりが意識を持ち、メリハリをつけての校務遂行が欠かせない。
2 学校教育目標	教育理念:「農は国の基」 校訓:「質実剛健、明浄真正」 教育目標:「農業の専門教育を柱とし、さまざまな教育活動とおして、地域社会に貢献できる有為な人材を育成する。」
3 本年度の重点目標	スローガン:「汗をかき 人と和して 己を磨く」 ~地域に根ざすグローバル人材の育成をめざして~ (1) 基本的な生活習慣の確立と「生活マナー・コミュニケーション能力」の向上を図る。 (2) 学びあい(学んでよかった)、そして学びたい学び舎をめざし、学校・学科の魅力づくりの推進に努める。

重点取組内容・成果指標				中間評価	5 最終評価				主な担当者	
(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価		意見や提言
●学力の向上	○学力向上につながる学びへの意識向上	○「学びの時間」に主体的に取り組む生徒は90.3%以上をめざす	・「学びの時間」の充実に向けた雰囲気づくりと指導体制の確立に努める ・小テストの事後指導の充実と徹底を図る	B	・「学びの時間」に主体的に取り組む生徒は90.3%となり、引き続き生徒の取り組む環境作りをする必要がある ・今までの小テストで、平均点を85点以上とした生徒は、全体の52.3%であり、更に生徒に家庭学習を促すよう意識付けが必要 ・身の回りの整理・整頓を意識する生徒は、89.1%であり、さらに意識付けが必要	A	・「学びの時間」に全校生徒に実施した小テスト(ブチテスト)の平均は、1年生82.5点、2年生89.0点、3年生92.5点で平均88.0点の平均点となり目標を達成した ・「学びの時間」の生徒の取組み意識は、90.0%の生徒が、取り組むことができたと回答しており、取り組む意識が高い ・身の回りの整理・整頓を意識する生徒は91.7%であるが、教室を巡回すると整理・整頓ができていないところがあるので更に意識して、実践できるようにすることが必要	A	・小テストで年間平均点を85点以上取れることは評価できる	教務主任 進路指導主事 各担任
	○学びの場の整理整頓	○年間で全ての生徒の小テスト(ブチテスト)の平均点を85点以上にする ○身の回りの整理・整頓を意識する生徒90%以上をめざす	・生徒の意識向上に向けて、HR並びに実習の場を含め、あらゆる場面での生徒への声かけと意識涵養に努める	A	・「わかる授業づくり」を意図して授業に取り組んでいる職員は90.9%で、更に全ての職員が意識を持って取り組めるように声掛けが必要 ・各種研修会への積極的な参加と、職員相互の授業研究を推進する	B	・「わかる授業づくり」を意図して授業に取り組んでいる職員は83.0%で、更に全ての職員が意識を持って取り組めるような雰囲気作りが必要 ・生徒の授業満足度を定期的にアンケートを実施して、把握する必要がある	B	・職員「わかる授業づくり」、生徒が「満足する授業づくり」を更に推進してもらいたい	教務主任 ICT利活用推進委員 各教科担当
●心の教育	●「生命尊重の心」と「協働する心」の育成	○他者への「思いやり」や「優しさ」に配慮した言動をとる生徒90%以上をめざす	・日々のHRや実習等を通した命の大切さへの理解と、他者との関わり方に向けた体験活動や指導を充実させる ・全校ボランティアや異年齢交流の充実を図る	B	・他者への「思いやり」や「優しさ」に配慮して行動できた生徒は、最終評価で91.7%となり、目標を達成することができた。職員も89.7%が生徒が他者へ配慮した言動をとることができたと感じているので、更に生徒への意識付けが必要	B	・他者への「思いやり」や「優しさ」に配慮して行動できた生徒は、最終評価で91.7%となり、目標を達成することができた。職員も89.7%が生徒が他者へ配慮した言動をとることができたと感じている	B	・生徒が、「思いやり」や「優しさ」に配慮した行動ができるよう、更に教職員に意識付けをしてもらいたい	教務主任 生徒会主任 農場長・学科主任
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「いじめは絶対に許されない」との意識を持つ生徒100%をめざす	・定期的なアンケート実施による早期発見と、積極的ないじめ認知に努める ・いじめ防止の標語づくりと校内への掲示 ・生徒が相談しやすい関係づくりに努め、いじめ事案に対する組織的な対応の徹底を図る	B	・「いじめは絶対に許されない」と思う生徒は、98.9%であり、更にあらゆる場面で組織的な取組を行い、「絶対許されない」と意識する生徒を100%にする必要がある	A	・定期的ないじめアンケートの実施をすることや、いじめ防止標語作りを実施することで、「いじめは絶対に許されない」と意識させることができた。また、新型コロナウイルスに関するいじめや差別が起きないよう、生徒・保護者に連絡する際には、必ずいじめ・差別について注意喚起を行った。アンケートでも99.1%の生徒が、「いじめは絶対に許されない」と意識している	A	・「いじめは絶対に許されない」ということを、「いじめ防止の標語づくり」や日常生活の中で、意識付けしていることは評価できる	生徒指導主事 保健主事 教育相談担当
●健康・体づくり	●安全に関する資質・能力の育成	○農業実習や部活動等での生活事故の前年比半減、登下校時の交通事故0(ゼロ)をめざす	・生活事故防止に向けた研修会等を実施し、生徒・職員の安全確保に向けた意識を高める ・自転車マナーの向上と交通事故防止に向け、登下校時の安全指導と交通講話等の充実を図る	B	・登下校中の交通事故や学校生活で怪我をしていないと答えた生徒は、84.0%で、実習や部活動等で、事故を起こさないよう、生徒や職員の更なる意識付けが必要	B	・スポーツ振興センターへの申請は、昨年度が41件で今年度は37件で、申請数は減少している。申請内訳は部活動が圧倒的に多い。生活事故を減らすため、更に職員や生徒への意識付けが必要 ・職員の生活事故が2件、交通事故が1件発生しており、職員の安全確保に向けた意識を高めることが必要 ・登下校中の交通マナーは、教職員は85.1%、保護者が93.1%が良いと感じている。教職員も90%が良いと思うよう声掛け等を行い、マナーを更に向上させる必要がある	B	・登下校中の交通事故や学校生活で怪我をしている割合は少ないが、部活動中にけがを少なくするための手立てを考える必要がある	保健主事 生徒指導主事
	○感染症予防に向けた危機意識の向上	○感染症予防に向けた意識を持つ生徒90%以上をめざす	・ウィズコロナ時代での工夫を凝らした行事の実践を通して、生徒の意識向上につなげる ・「はなまる連絡帳」によるタイムリーな情報提供と注意喚起に努める	A	・新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、生徒は98.3%が感染予防に向けた意識を持ちながら行動することができた。さらに意識を継続することが必要	A	・感染予防に向けて、その状況による注意喚起をタイムリーに保護者・生徒に発信することができた。 ・学校行事の開催方法について、その時のコロナ感染状況踏まえ、対面開催やオンライン開催で実施することができた ・アンケートで98.3%の生徒が感染予防に向けて意識して行動することができていると答えている ・昼食時には、保健委員の生徒が、毎日校内放送で、黙食をするよう、生徒への意識付けを行った	A	・生徒自らが、感染予防のために昼食時、黙食を促すような取り組みをしたことは評価できる	保健主事
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。(1月45時間、年間360時間) ○ワークライフバランスに向けた意識向上を図る	・定期退職日の設定(水曜日)と呼びかけ ・部活動休業日(2日間)の設定 ・出退勤管理システムを活用した、自らの働き方振り返りと見直し(効率化、時間外削減)を、さらに推進する	C	・定時退職日を設定しているが、なかなか教職員に浸透していない。管理職がお手本を見せながら意識付けをすることが必要 ・時間外在校等時間の上限を超過している職員が毎月あり、粘り強く声掛けを行い、職員の意識を改革を行うことが必要	C	・定時退職日を朝の朝礼で促しているが、なかなか、職員の意識づけができていない ・部活動休業日については、適正な休日確保ができていないが、部活を指導する職員の時間外が減少できないところがある	C	・部活動による時間外を減少させるのは、なかなか難しいと思うが、何か対策を考える必要がある	管理職
	○魅力ある学校・学科づくり	○地域をテーマとする探究活動やプロジェクト研究に意欲的に取り組む生徒60%以上をめざす ○積極的に英語でコミュニケーションをとろうとする生徒60%以上をめざす	・1年次「総探」の個人研究を足掛かりに、2年、3年次の「探研」の充実につなげる ・英語の授業充実に加え、留学生、ALT等のネイティブスピーカーとの交流、学校交流、語学研修等にも積極的に取り組む ・「総探」の個人研究を足掛かりに、2年、3年次の「探研」の充実につなげる ・英語の授業充実に加え、留学生、ALT等のネイティブスピーカーとの交流、学校交流、語学研修等にも積極的に取り組む	B	・「総合的探求の時間」や「課題研究」に意欲的に取り組んでいると生徒は、90.3%であり、更に地域をテーマとする活動に積極的に取り組む、「グローバルな学び」に結びつけることが必要 ・各学科の専門学習へ興味を持って取り組んでいると答えた生徒は93.7%であり、更に生徒の意識を向上させるための指導を実践して行くことが必要 ・9月末現在、一般企業希望者59名のうち34人(57.6%)が結果が判明し、就職が内定している。今後、公務員希望者についても結果が判明する予定	B	・「総合的探求の時間」や「課題研究」に意欲的に取り組んでいると生徒は、90.3%であり、更に地域をテーマとする活動に積極的に取り組む、「グローバルな学び」に結びつけることが必要 ・各学科の専門学習へ興味を持って取り組んでいると答えた生徒は93.7%であり、更に生徒の意識を向上させるための指導を実践して行くことが必要 ・9月末現在、一般企業希望者59名のうち34人(57.6%)が結果が判明し、就職が内定している。今後、公務員希望者についても結果が判明する予定	B	・「総合的探求の時間」の全体発表に意欲を持って取り組むことができたことは、評価できる ・国立大学への合格者を出せなかったのは残念である。更に指導体制を考えてほしい ・「官公庁へ15人が就職できたことは評価できる	教務主任 各教科主任
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり	○基本的な生活習慣の確立並びに「マナーとコミュニケーション能力」の向上	○身だしなみ・挨拶・礼儀マナーの向上 ○コミュニケーション能力の向上	・生徒への積極的な声かけや関わりを通して、生徒・職員間の関係づくりにつなげる ・HRや授業で、時間やルールの順守や身だしなみの大切さを繰り返し伝える ・さまざまな場面を通して、「伝える力・聴く力・相手の思いを汲み取り力」の育成に「努める	A	・日頃より身だしなみを整え、自ら主体的に挨拶をすることやコミュニケーション能力を向上させることができたこと答えた生徒は93.1%であり、更に継続できるように意識付けが必要 ・生徒の挨拶や礼儀マナー、他者との関わり方が向上したと感じる職員は、93.2%で、あらゆる場面で生徒に意識を持たせるような指導が必要	B	・日頃の授業や行事等の中で、職員の生徒への積極的な声掛け等や、身だしなみについては、随分と良くなっている ・アンケートでは、自ら主体的に挨拶をすることやコミュニケーション能力を向上させることができたこと94.0%の生徒が答えているが、挨拶についてはもっと改善できる ・生徒の挨拶や礼儀マナー、他者との関わり方が向上したと感じる職員は、89.7%であった	A	・学校を訪れた際、生徒はともよく挨拶をしてきている。更に気持ちの良い挨拶ができるように頑張ってください	教務主任 各教科主任
	◎佐賀への誇りと期待を胸に、高い志を持って地域に関わっていくことを目指す教育活動	○「佐賀に誇りを持ち、地域に関わっていくこととする」生徒90%以上をめざす ○県内就職率70%以上をめざす	・地域と連携する活動、地域をテーマとするフィールドワークや探究活動を充実させる ・県内企業説明会への参加と県内事業所を招聘しての進路ガイダンス(複数回)を実施する	・「佐賀県に誇りを持ち、地域に関わって行きたい」と考えている生徒は81.7%であり、日頃より、佐賀に誇りや愛着を感じられるよう、佐賀の魅力や魅力を伝えることが必要	B	・「佐賀県に誇りを持ち、地域に関わって行きたい」と意識する生徒は、83.9%となり若干目標に達していない ・県内への就職内定率が72.0%と目標を達成している ・1年生の総合的探求の時間は、地域と連携した課題を設定し、探究活動に積極的に取り組むことができた	A	・県内就職率が72%というのは評価できる	教務主任	
5 総合評価・次年度への展望	★グローバルな学びの推進	○地域をテーマとする探究活動やプロジェクト研究に意欲的に取り組む生徒60%以上をめざす ○積極的に英語でコミュニケーションをとろうとする生徒60%以上をめざす	・1年次「総探」の個人研究を足掛かりに、2年、3年次の「探研」の充実につなげる ・英語の授業充実に加え、留学生、ALT等のネイティブスピーカーとの交流、学校交流、語学研修等にも積極的に取り組む ・「総探」の個人研究を足掛かりに、2年、3年次の「探研」の充実につなげる ・英語の授業充実に加え、留学生、ALT等のネイティブスピーカーとの交流、学校交流、語学研修等にも積極的に取り組む	B	・「総合的探求の時間」や「課題研究」に意欲的に取り組んでいると生徒は、90.3%であり、更に地域をテーマとする活動に積極的に取り組む、「グローバルな学び」に結びつけることが必要 ・各学科の専門学習へ興味を持って取り組んでいると答えた生徒は93.7%であり、更に生徒の意識を向上させるための指導を実践して行くことが必要 ・9月末現在、一般企業希望者59名のうち34人(57.6%)が結果が判明し、就職が内定している。今後、公務員希望者についても結果が判明する予定	B	・「総合的探求の時間」の全体発表に意欲を持って取り組むことができたことは、評価できる ・国立大学への合格者を出せなかったのは残念である。更に指導体制を考えてほしい ・「官公庁へ15人が就職できたことは評価できる	B	・「総合的探求の時間」の全体発表に意欲を持って取り組むことができたことは、評価できる ・国立大学への合格者を出せなかったのは残念である。更に指導体制を考えてほしい ・「官公庁へ15人が就職できたことは評価できる	管理職 教務主任 企画広報部
	○本年度は次のような点において評価できる。○15年連続生徒希望進路実現100%を達成した。○公務員の合格者は延べ39人(実就業者人数15人となった。○新型コロナウイルス感染拡大の兆しも見られたが、開催内容を変更するなど工夫した。特に「佐農フェスタ」については、校内での飲食関係はすべて中止とし、地域の方に参加してもらい、できる限り通常開催に近い内容で実施できた。また、卒業式についても4年振りに、在校生を参加させ、思い出に残る卒業式を実施することができた。○保健委員会の生徒が中心となり、毎昼食時の放送による「黙食のお願い」等、生徒の活動の中で感染予防に積極的に取り組んだ。○いじめ問題も、日頃から相談しやすい職員の間で関係づくり等とおして、「いじめは絶対に許されない」と意識させることができた。一方で次のような点が課題である。○職員の「わかる授業づくり」を意図してもらおう。○職員の働き方改革。○国立大学進学のため進路指導の強化等、次年度への展望としては、よいところはばいし、課題が残るところは、工夫・改善を図り、引き続き地元から愛される、魅力ある佐賀農業高校づくりに取り組みたい。									